



特定非営利活動法人 ピース ウィンズ・ジャパン
広報

Tel: 03 5451-5406 Fax: 03 5451 5401
pr@peace-winds.org <http://www.peace-winds.org>

スマトラ島沖地震 バニャック諸島支援 [第2報]

バニャック諸島で水・食糧・ビニールシート配布 ニアス島からの物資供給が途切れ、孤立

NGO ピース ウィンズ・ジャパン(PWJ、本部 = 東京都世田谷区、統括責任者 = 大西健丞)は、インドネシア・スマトラ島沖で3月29日午前1時10分ごろ(日本時間)発生した大地震を受け、震源に極めて近いバニャック諸島で、水・食糧・ビニールシートの緊急配布を行いました。同諸島では多くの住民が家を失ったほか、通常、食糧や生活物資の供給をニアス島に頼っていたため、ニアス島の被害を受け、食糧不足が深刻になっています。しかし、PWJを除いては諸島外からの援助はまったく入っておらず、同諸島は孤立状態に陥っています。

PWJは3月31日朝、PWJが支援活動を行っているスマトラ島西岸のムラボーから、インドネシア人スタッフを船にて、同諸島へ向かわせ、現地の状況を確認。その結果、地震直後に2メートル程度の津波に襲われたこと、被災後も現在に至るまで水が引かないままの地域が多いこと、多数の住民が家を失ったことが判明しました。(インドネシアの国連人道問題調整事務所=UNOCHA=によると、3000人が家を失ったとの情報があります。死者数については、200~300人という情報と、死者はないとする情報が錯綜しています。)

また、現地入りしたスタッフが得た情報によると、通常、同諸島にはニアス島から物資が運ばれてきていましたが、地震後はインドネシア政府から同諸島全域向けに10トンのコメが運ばれてきた以外、諸島外からの援助は全く入っていません。コメをはじめとする食糧の不足は深刻で、従来、飲用に使っていた水も塩分の混じった状態になっています。また、家を失った住民からは「テントがほしい」との声が強く聞かれました。

PWJは4月2日、ムラボーで調達したミネラルウォーターと、食糧(干し魚、魚缶詰、ビスケット、コメ、インスタントヌードル、食用油、ベビーフード、紅茶、塩、砂糖)、ビニールシート、約20トンを2隻のチャーター船に積み込み、ムラボーから同諸島へ出発させました。同乗したPWJのインドネシア人スタッフが現地到着後、3日夜までに、物資配布を行いました。

PWJでは、国際社会、援助関係者に、バニャック諸島支援の必要性を強く訴えかけるとともに、今後の支援の可能性についても、現在、調査・検討を続けています。

ムラボーからバニャック諸島へは、海路20時間前後、かかった模様です。
バニャック諸島の写真、提供可能です。お問い合わせください。

このリリースに関するお問合せは、ピース ウィンズ・ジャパン広報担当までお願いします。

TEL: 03-5451-5406 / FAX: 03-5451-5401 / pr@peace-winds.org